

砂防設備の整備とその効果

長野県南木曾町 梨子沢

- ・南木曾町では昭和40、41など、土石流災害が頻発。当時県は「南木曾町災害対策連絡協議会」を設置し、関係機関と連携しつつ、**予算前年比にとらわれない南木曾方式と呼ばれる重点整備により大規模堰堤を整備**(南木曾町史より抜粋)
- ・梨子沢では、**昭和46年当時完成の大規模堰堤が土砂流出を抑制し被害を大幅に軽減**。速報値(中部地整)によれば、約131千 m^3 の流出土砂のうち3基の砂防堰堤に約7割の85千 m^3 (うち梨子沢砂防堰堤:26千 m^3)を捕捉



土石流発生後

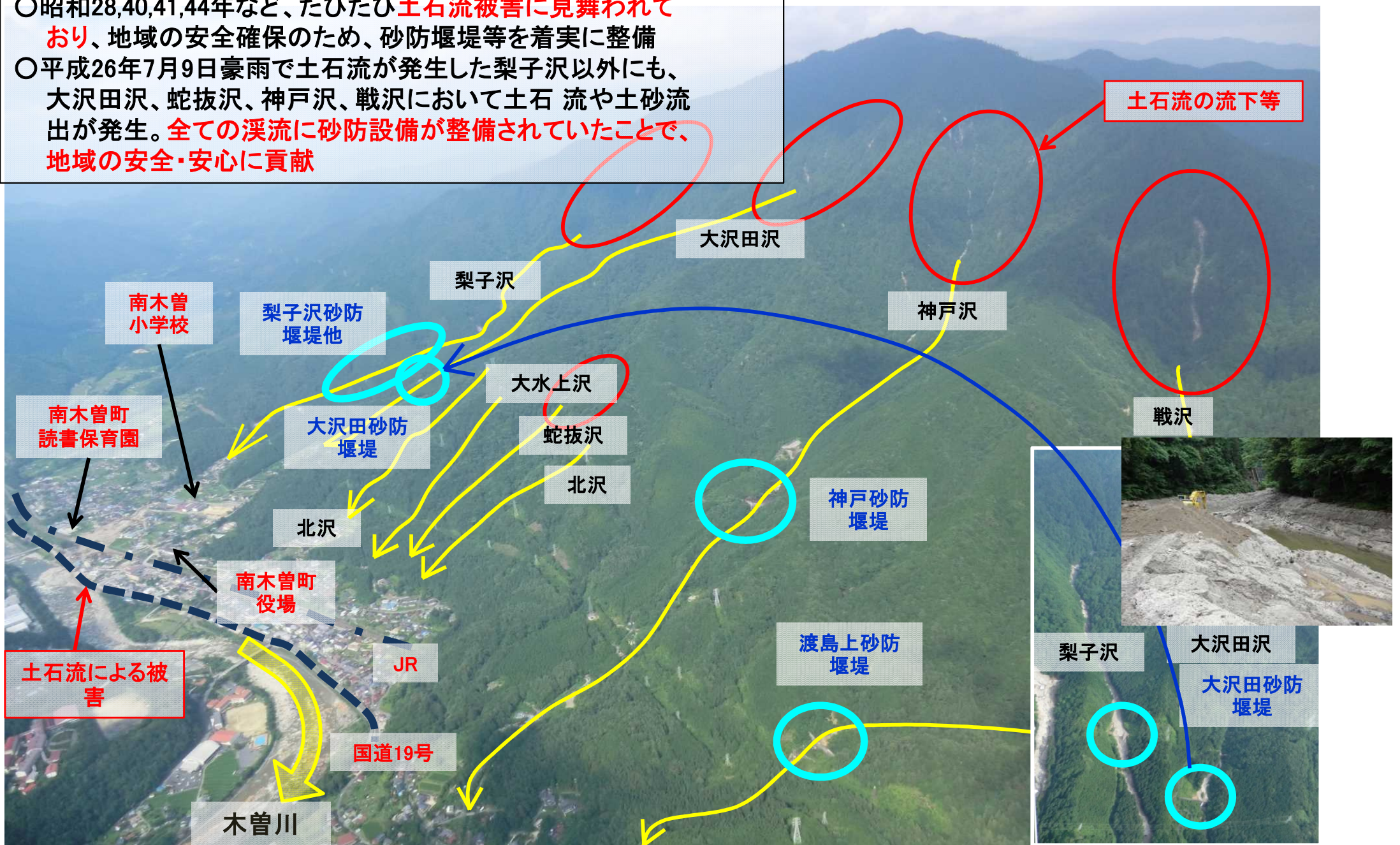


土石流発生前

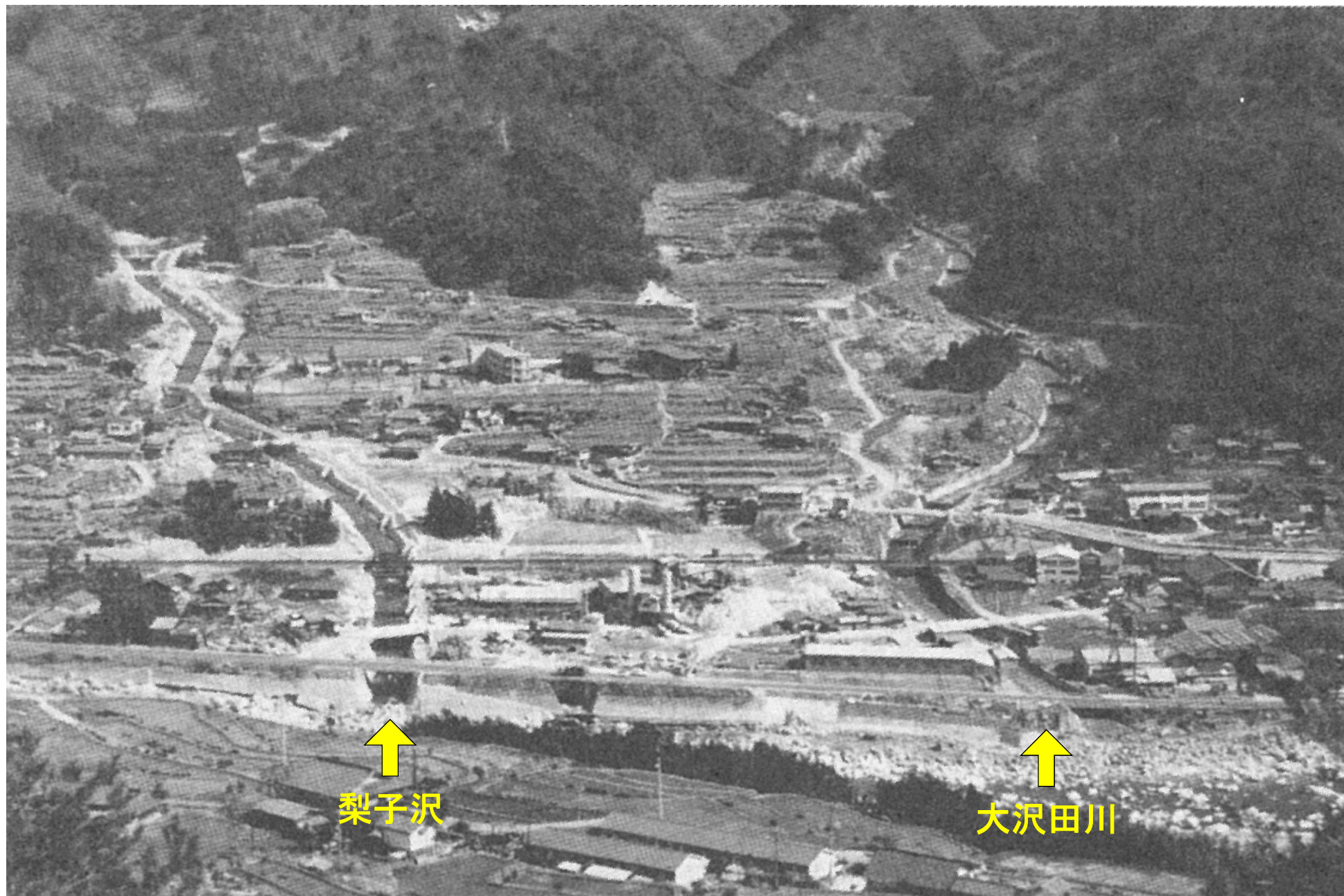
梨子沢砂防堰堤 S46完成
H=20.0m L=123.7m

土石流災害の被害を軽減した南木曾岳東山麓の砂防堰堤群

- 南木曾岳東山麓には、計8溪流の土石流危険溪流が存在
- 昭和28,40,41,44年など、たびたび土石流被害に見舞われており、地域の安全確保のため、砂防堰堤等を着実に整備
- 平成26年7月9日豪雨で土石流が発生した梨子沢以外にも、大沢田沢、蛇抜沢、神戸沢、戦沢において土石流や土砂流出が発生。全ての溪流に砂防設備が整備されていたことで、地域の安全・安心に貢献



昭和41年6月 南木曾災害の復旧事業により整備された 梨子沢、大沢田川の流路工



(『長野県砂防史1992 <砂防課設置50年記念>』 (長野県土木部砂防課、長野県治水砂防協会)をもとに作成)